

# 会派視察・研修報告書

会派名 公明党  
代表者名 片山 竜美

1 日 ち	令和 5 年 10 月 17 日(火)18 日(水)
2 視 察 先 研修名、主催者及び会場	第 28 回 清溪セミナー オンライン受講 主催:清溪セミナー実行委員会
3 参 加 者	片山 竜美
4 調査・研修の テーマ	「子どもを守る」
5 主な内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 二人は同時に親になる～産後のずれの処方箋 狩野さやか氏</li> <li>② 地域における顔の見える切れ目のない子育て支援 井上登生氏</li> <li>③ 子どもたちのこころと命を守るために～学校にアウトリーチする NPO 重永侑紀氏</li> <li>④ こども家庭庁の創設とこども政策 山田太郎氏</li> <li>⑤ 子どもを本気で応援すれば、まちは元気になる 泉房穂氏</li> <li>⑥ ヤングで終わらないヤングケアラー 仲田海人氏</li> <li>⑦ すべての子どもの成長と子育てを支えるためには 野田聖子氏</li> </ul>
6 所感、提言事項、課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 「育児はひとりでできる分量ではない」「らしさから自由になる」「女性の課題から男女両方の課題へ」という新常識へのアップデートが必要であることを、分かりやすく教えていただいた。制度は整ってきたので、いかに使えるようにしていくかが重要であると理解できた。</li> <li>② 困難感のある、あるいは気になる子どもや養育者を支援するためには「多職種の間」からの情報収集が必須であること。またその仲間へのリスペクトを持ち、顔の見える連携・協働が不可欠であることを学んだ。さらには、子どもや養育者と支援者の関係もリスペクトが重要であり、問題解決には信頼関係が大切であることを学んだ。</li> <li>③ 子どもの権利を守り、命を守る活動をしている北九州地域で活動する NPO の話を聞いた。こんな団体が近くにいればいいと思うが、その方は「NPO をつくる機運を作ってほしい」と訴えられた。</li> <li>④ こども家庭庁ができるまでの苦労や裏話を聴くことができた。これから「こども家庭センター」が各自治体にできるが、その運用をどうしていくかが問題であり、そこを私たちもしっかりと見ていかなくてはならないと思った。</li> <li>⑤ やはり泉元明石市長の話は強烈であるが、結果を出しているので、説得力がある。子ども政策を充実することにより、経済を動かし、人口を増やし、税収も増える。まさに好循環である。財源も無駄を徹底して見直し、市民に反対されようと貫く意思は大したものである。それだけのビジョンを 10 歳の頃から考えているのもすごいと思った。</li> </ul>

	<p>⑥ 実際にヤングケアラーを経験し、就職した今でも家族の介護を続けている方の講演である。現在のヤングケアラーの基準が曖昧であり、ヤングでは終わらないヤングケアラーの実態は深刻であり、私たちも学ばなければならないと感じた。</p> <p>⑦ こども家庭庁は、妊娠して子ども手帳をもらった時から、18歳を過ぎるまでも切れ目ない支援をしていく。また、こどもの逃げ場をつくるなど、家庭庁設立に向けて議員が構想してきたことを分かりやすく聞くことができた。</p>
<p>7 写 真 等 ※視察の場合は必須、研修の場合は任意</p>	

※視察先、研修先ごとに1枚作成すること。

※「6 所感、提言事項、課題等」は、参加者全員分を記載すること。